

# カトリック 仙台教区報

2006年1月1日 No.167  
発行  
カトリック仙台司教区  
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12  
Tel (022) 222-7371 Fax(022)222-7378  
発行責任 広報委員会  
URL ; <http://sendai.catholic.jp/>

## 仙台教区の輝かしい新年！・・・おめでとうございます。 マルチノ 平賀徹夫師が司教に選任

### 仙台司教任命のお知らせ



カトリック仙台教区の皆様

教皇庁大使 アルベルト・ポッターリ・デ・カステッロ大司教よりの依頼により皆様に仙台教区の司教の任命をお知らせいたします。

この度教皇ベネディクト16世は仙台教区の司教に、現在仙台教区管理者を務めているマルチノ 平賀 徹夫師を任命されました。

教皇庁はこの任命を2005年12月10日、ローマ時間で正午12時（日本時間同日午後8時）に発表しました。

教皇庁大使アルベルト・ポッターリ・デ・カステッロ大司教は、任命された平賀徹夫師が仙台教区の事務局長を兼任していることなどを配慮され、この重大な人事の発表の任を東京教会管区大司教であるわたくしに託されました。そこで異例ではありますが、わたくしが仙台教区本部にて平賀師の任命を発表することとなった幸いです。

東京大司教としてわたくしは仙台教区の皆様に心からのお慶びを申し上げます。溝部 脩司教が昨年高松教区へ転任されて空席となって1年半近く経過し、この間、皆様は本当に熱い祈りをもってこの知らせを心から待ち望んでおられました。本日このよき知らせを皆様にお伝えできますことは誠に光栄でございます。皆様、どうかこれからは平賀司教を支え助け彼のためによりいっそうよく祈るようお願いいたします。

また仙台教区の司祭の皆様にお願ひ致します。司教は司祭と共に働く者であり、司祭の助けなしにその任務を果たすことは出来ません。どうか司教のよき同伴者として、司教との親密な交わりのなかで、相互理解・信頼のうちに、司教を支え、助けていただきたいと切に願ひいたします。

2005年12月10日

岡田 武夫

東京大司教 ペトロ 岡田 武夫



司教に任命されて  
被選司教 平賀 徹夫

司教任命を受けて恐れおののいて  
いるという状況です。神様の導きに  
信頼し、教区の司祭方はじめ信徒、  
修道者の皆様の支えとご協力をいた  
だきながら、仙台教区が一つとなっ  
て「教会がある」とこの意味を表して  
いくことが出来たらいいなと願って  
います。

### 塩と光

「一年の計は元旦にあ  
り」と申しますが、新しい  
年を迎えるに当たって、ま  
ず神がこの新たな一年に  
おいて、一体何をなさろう  
としておられるのかに、注目すべ  
きと思います。つまり、自分が、  
今年、ぜひ実行したいことを考え  
る前に、何はさておき神がわたし  
に対して、何を計画しておられる  
のかを、思い巡らすべきでしょう。

「わたしは来ました・・・神よ、  
御心を行うために」（ヘブライ  
10・7）が、イエスのこの世での  
最初の祈りでした。ですから、わ  
たしたちも、年頭に当たってこの  
イエスの祈りに倣って、「神よ、今  
年もまた、あなたの御心を行う決  
意を、新たにします」です。「主  
よ、主よ」と言う者が皆、天の国  
に入るわけではない。わたしの天  
の父の御心を行う者だけが入るの  
である（マタイ7・21）。わたし  
たちの信仰の生き方とは、徹底し  
て御心の御心を実践することに、  
ほかなりません。そのため、日々  
祈り、みことばを食べ、自分に対  
する御心の御心を生きるために、  
「おことばどおり、この身になり  
ますように」（ルカ1・38）のマリ  
アの祈りが、新年の祈りでしょう。

# 岡田大司教来仙・司教任命を発表

12月10日(土)、その日は厳しい寒さ。午前中から雪が降っていた。仙台市内の各教会から連絡を受けた教会委員と司祭が午後8時を期してカテドラルの小聖堂に集まった。東京から駆けつけた岡田大司教は、会衆に向かって「仙台司教任命のお知らせ」前頁左枠内文書を読み上げた。「この度教皇ベネディクト16世は仙台教区の司教に、現在仙台教区管理者を務めているマルチノ平賀 徹夫を任命されました。その瞬間、聖堂内は大きな拍手に包まれた。続けて岡田大司教は最後まで文

書を読み上げられ、拍手に迎えられて被選司教となった平賀徹夫師が、緊張気味に前に進み出て挨拶



共に祈りをささげる岡田大司教と平賀師

した。「私のようなものに司教職が勤まるかどうかと考えた時、とても不安です。神様の恵みと、皆様の祈りに支えられていることに信頼して、詩編69 7に『主よ、あなたを待ち望むものが、私のために恥を受けることがないように』と書かれています。仙台教区の皆様が、私のために恥をかかないようにしたいと思います」と語り。再び大きな拍手を浴びた。岡田大司教の先導により皆で「主の祈り」を唱え、写真・祝福を受けて終了した。仙台教区にとって新しい出発の始まりとなった。



新司教誕生を拍手で祝福

## 高松教区へお礼状

仙台教区が司教空位の間、高松教区の全教会で、仙台教区の司教が一日も早く決まるように祈っていただくことができました。高松教区の皆様に次のような感謝の手紙を送りました。

カトリック高松教区の皆様へ

主の平安  
主の降誕を待ち望むこの節に、私たち仙台教区にとって大きな喜びの知らせが届きました。

去る12月10日(土)午後8時、東京大司教区 岡田武夫大司教様から来仙され、仙台教区カテドラル小聖堂において、教皇ベネディクト16世が仙台教区司教にマルチノ平賀徹夫師を任命されたことを発表されました。

私たち仙台教区では、前教区長 溝部脩司教様が、高松教区に転任されて以来この1年半、一日も早く教区の一致の中心となる司教を与えてくださるよう、祈り続けてまいりました。

同様に、高松教区の皆様方が、私たちと共に心を合わせて祈り続

けてくださっていたことに、大いに励まされ、心強い思いでありました。

仙台教区の司教が決まった今、あらためて高松教区の皆様に、感謝申し上げます。

また、高松教区の皆様には、私たちと共にこの大きな喜びを分かち合っていたいただけることを神様に感謝したいと思えます。

大きな喜びのうちに、クリスマスと新年をお迎えくださいますよう心からお祈り申し上げます。

2005年12月13日  
カトリック仙台司教区  
事務局長 和野 信彦

上記の日程で司教叙階式が行われることが決定いたしました。

今回は、叙階式の時期を考慮し、仙台白百合学園の協力を得てレジナ・パークス・ホール(講堂)をお借りすることになりました。

教区司祭団より初めて生まれる仙台教区長の司教叙階式のために、これから準備委員会を立ち上げてみなさまのお力をお借りすることになると思います。

ご協力をよろしく願います。たします。  
教区本部事務局長 和野 信彦

## マルチノ 平賀徹夫被選司教履歴

生年月日 1945年1月2日

岩手県花巻市上根子(かみねこ)字熊堂

現住所 983-0833

仙台市宮城野区東仙台6-8-5 カトリック仙台司教館

1963年2月24日 岩手県カトリック花巻教会にて受洗

1967・3 岩手大学教育学部卒業

1967・4~1975・3 東京カトリック神学院

1970・3 上智大学文学部哲学科卒業

1975・3 上智大学神学部神学科卒業

1980・6 ウルバノ大学教会法学科修士課程終了

1974・9・16 司祭叙階 岩手県盛岡白百合学園

1975・4~1977・3 一関教会助任司祭

1981・1~1991・3 仙台教区事務局長

この間、一関教会・千厩教会・西仙台教会協力司祭  
塩釜教会・白石教会主任代行

1985・4~1987・3 塩釜カトリック幼稚園園長

1989・11~1994・3 宮城県南地区担当司祭

1994・4~1996・3 「カトリック新聞」編集長

1997・4~1998・3 盛岡四ツ家教会協力司祭

1998・4~2000・3 大湊教会主任司祭

大湊カトリック幼稚園園長

2000・4~2001・9 気仙沼教会主任司祭

2000・4~2002・3 気仙沼カトリック幼稚園園長

2001・10~2003・3 仙台中央地区担当司祭

2003・4~2004・5 仙台教区司教総代理

2003・4~ 古川教会主任代行兼務

2004・7~2005・11 仙台教区管理者

2005・12・10 仙台教区司教に選任

# 声の喜びに誕生の司教

山浦 玄嗣(大船渡)  
平賀神父さまが司教さまになられたこと、まことに嬉しく、今後は平賀司教さまのもとで、仙台教区に新たな時代を開くべく、微力を尽くしたいと存じます。本当に安堵いたしました。

いわき教会 信徒会  
会長 西館 美喜雄

事務局長 金子 力  
仙台司教任命まことに  
おめでとうございませ  
す。いわき教会一同心よ  
りお祝い申し上げます。  
長い間の念願でした  
司教様誕生ほんとうに  
嬉しく思います。

昨日のミサで一同感謝  
のお祈りを捧げまし  
た。  
心からお祝い申し上げ  
ます。

Sr.今泉 ヒナ子(コン  
グレガシオン・ド・イトル  
ダム)  
おめでとうございます。  
私は平賀師が教区事務  
局長をしておいでにな  
ったところに、何度かお  
目にかかり、マザーテレ  
サが仙台においてにな  
った折にお手伝いさせ  
ていただいて、平賀師の

丁重なお人柄と事務能力の確  
かさにと敬服したことでした。  
あれ以来20年お会いしてい  
ないので、仙台教区のホームペ  
ージをまず拝見させていた  
いで、大変懐かしく存じ  
ました。

西仙台教会壮年部長  
上野 隆  
平賀新司教にお祝い申し上げ  
ます。

教会とい  
えども人々  
が集まって  
作った組織  
にちがいな  
く、そこには  
軋轢もあり、  
ひがみもあ  
り、争いもあ  
るでしょう。  
聖職者として  
その例外では有り得ないでしょ  
う。教区長となられる司教の苦勞  
はひとしおと思えます。これから  
の宣教は聖職者と信徒がたがい  
に胸襟をひらいてガッチリ手を  
組んだものでなければなりません。  
そのような司牧を期待します。  
後藤 敕(元寺小路教会)  
吹雪に凍えてうすくまってい  
る物乞いに自分のマントの半分  
を切り裂いて施した聖マルチノ。  
その夜、そのマントの切れ端をま  
とったイエスがマルチノの夢に



カトリック児童福祉会からお祝いの花籠(12日)

現れ、「マルチノよ、お前がマン  
トを切つて着せたのはわたしだ  
つたのだ」と仰せられたという。  
この霊名をいただく勇敢で心や  
さしい平賀神父様を善き牧者で  
ある司教として私達にお与えく  
ださつた慈しみ深い父に心から  
感謝します。新しい明日に期待を  
込めて。

園部 英俊(元寺小路教会)

本當にうれしく思  
います。人権を考える委  
員会の一員としては、  
仙台教区が「多国籍教  
会をめざす」という方  
針を掲げて進むことを  
願つております。ちょ  
っと地味ながら、素朴  
で真面目な 努力家と  
いう若手の県民性その  
ものの新司教様ととも  
に一步、一步、前に向  
かつて歩んでいきましょう！

赤井 聖子(東仙台教会)  
平賀師が司教に選任されたこ  
とは喜ばしいことです。  
師は、人間的にもバランスのと  
れた方なので、適任ですよ。  
ただ、師にとってはこれからが  
受難の時かもしれません。私  
たちみんな、支えていき  
たいと思います。

里村 智彦(八戸塩町教会)  
新司教と共に  
待ちに待つた連絡、新司教決定

あの時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

「えー、本當！」と喜び、日曜日  
の御ミサでは、皆で新司教様のた  
めに祈りをささげたいしまし  
た。私は、平賀司教様とは「宣教  
司牧を考える会」で一緒にさせて  
頂いておりましたが、いつもその  
思慮深さに感心し、温厚な人柄に  
親しみを覚えておりました。その  
方が司教様になりました。これ  
からは、今まで以上に仙台教区  
のために頑張ることが出来る、新司  
教と共に。そう実感しております。  
福島由香子(八戸塩町教会)

「神は共にいます」

平賀司教様 司教任命おめでと  
うございます。責任の重い役職を  
引き受けてくださつてありがと  
うございます。  
今から三年前、私が仙台から八  
戸に越すことになった時のこと  
を覚えていますが。送別会に参加  
していただきましたね。そして、  
何か一言書いてくださいとの求  
めに応じて、メッセージを書いて  
いただきました。お酒が入ってい  
たためでしょうか、30分も頭を抱  
えて考え込んで(本當に30分です  
よ！)、そして書いてくださった  
のが「神は共にいます」でした。  
ああ、そうなんだ、どこに行つて  
も、神は私と共にいてくださる、  
私は一人ではないのだ、そう思っ  
たものです。

あ、その時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

あ、その時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

あ、その時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

度は私が贈ります。「神は共にい  
ます」。  
久ヶ澤 甫(一本杉教会)  
新司教様誕生おめでとうござ  
います。  
溝部前司教様が高松に転任さ  
れ、司教座空位なつてから一年七  
カ月目での朗報でした。

しかも、典礼暦では年始めであ  
り、これからの仙台教区が聖霊の  
光に満ちあふれて来るような気  
持ちにさせてくれました。これか  
ら行わなければならない課題が  
沢山あるように思いますが、新司  
教様を中心は今までより以上に  
司祭、修道者、信徒が一致して協  
力することが神のみ旨に近づく  
ものと信じます。

江刺 俊光(北仙台教会)  
司教様誕生おめでとうござい  
ます。降誕祭を迎えるにあたり、  
皆様からの大きなプレゼントを  
頂くことが出来ましたことは、私  
たち教区にとって何よりのお恵  
みです。神様は私たちの願いをか  
なえてくださいました。司祭・信  
徒が一丸となつて司教様を支え、  
これからの仙台教区が更なる発  
展をしますよう力を合わせまし  
よう。司教任命の日に歌われた  
『きよつこ神がつくられた日』  
こそ、この日にふさわしい聖歌だ  
と深い感銘を受けました。  
平賀司教様心からおめでと  
うございます。

あ、その時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

あ、その時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

あ、その時平賀神父様が私に贈つ  
てくださったのと同じ言葉を、今

# 司教誕生に喜びの声

## 平賀徹夫被選司教 霊名の聖人

聖マルチノ(ツール)司教(317年ごろ - 397年)

マルチノは、ローマ軍人の父がサバリア(現在のハンガリー)に駐屯したときに生まれ、イタリアで育った。15歳のときローマ騎兵となり、フランスに派遣された。ある大雪の日に、凍えている貧者に会い、着ていたマントを二つに裂き与えた。その夜、切れたマントをまとったイエスが夢に現れ「あなたがマントを与えた男こそ、この私である」と言われたという。334年に洗礼を受け、退役の決心をし、ポワチエの司教聖ヒラリオと出会い、彼の指導のもとで修道生活を始めた。360年ごろガリアに行き、リギュジェにヨーロッパ最初の修道院を創設し、多くの弟子とともに祈りと労働と宣教に力を尽くした。

370年にツールの司教に任命されるが、修道生活を続け、80人ほどの同志とともにマルムティエに住んだ。この修道運動は各地に広がり、マルチノが定めた祈り、労働などの規則は、後年聖ベネディクトの会則の手本とされた。彼は、司教として各地を宣教して巡り、病人を癒し、政治の乱れを正すことなどに力を尽くした。

当時、教会は殉教者だけを聖人として認めていたが、殉教者ではない聖人として初めて認められたのが、マルチノである。ヨーロッパでは、彼は親しまれているため、人の名前をはじめ教会、学校などにマルティン、マルタン、マルティーノというように、その名をつけたものが多い。フランスの保護の聖人とされている。祝日は11月11日(ホームページ・ラウダーテ「聖人カレンダー」より)

伊藤 日出子(古川教会)  
平賀司教様誕生、おめでとうございます。仙台教区は長い間、司教様を待ち望んでおりました。  
司教様は、これまで2年近く隔週に古川教会においてくださり、「ミサをささげ、聖歌を指導し、コメントの勉強会をしてくださいました。  
私事ですが、今夏、私が入院した時には、何度も病院においてになり、ご聖体をお持ちくださいました。本当に優しく、自然体で、祈りの方です。どうぞ、私たち仙台教区民の司牧者心からお願いたします。

Sr.小針千代 (聖ウルスラ修道会第二修道院)  
待望の時を迎えて  
待ちに待った吉報の訪れを受け、深い感激とある種の安堵感を覚えつつ、言い尽くしがたい喜びのうちに、新司教様の誕生を心から神様に感謝致しております。  
平賀司教様 おめでとうございませう。  
司教座空位の苦難の時を信徒と共に味わい、その思いを熟知しておられる新司教様の存在は、仙台教区にとつて大きな希望と力をもたらすものとなりました。  
私たちは祈りと恭順の心を持って、新司教様の牧杖のお導きの下に、主のみ旨を実現すべく、新たなあゆみが続けて参りたいと思います。

あけの星会長 阿部利枝  
うれしい!!  
神様のご計画は何と素晴らしいのでしよう。あんなに待ちこがれてお迎えした溝部司教様を、あつという間に高松教区にお送りした私たちの寂しさは計り知れませんでした。でも今、私たちの平賀神父様が司教に任命されたことはパパ様からの何よりの賜り物と狂喜しています。一年前私たちの会の白河巡礼のとき、出発に遅れた会員を気遣って優しく見送ってくださいました平賀神父様、あの笑顔で、私たちを大きく包んでください。  
日本カトリック女性団体連盟 理事 阿部 正子  
平賀司教様おめでとうございませう。仙台教区に一日も早い司教

着座をと、日本カトリック女性団体連盟の皆様や他教区の方々も私たちと共に祈りくださいましたので、お祝いと喜びを分かち合つて頂き嬉しく思っています。  
昨年の日力連仙台理事會では、顧問の宮原司教様と全国各地の姉妹を温かくお迎え頂き感謝しております。仙台教区信徒のお導きと、世界のカトリックの発展のためにますますお元気で活躍されることを祈り、心からお祝い申し上げます。  
海老澤 英一(一本杉教会)  
聖歌の大恩師、平賀新司教様を讃えて

す...失礼  
聖歌未経験の私に、特別に親切丁寧に教えていただきました。お陰様で、声だけは何とか出せるようになりました。今後は、ご多忙のため、気軽に指導いただけなくなりますのではないかと残念に思っています。メキシコの聖体大会で溝部司教様から洗礼を受けた私に、今度は平賀司教様から堅信を受けさせて頂けるとは、光栄です。  
私たちはこれから何らかの形で、お手伝いをしていきたいと思っております。 神に感謝  
仙台地区壮年の会代表 岡田 謙一  
平賀司教様おめでとうございませう。  
司教様は、仙台教区に長年おられたので、仙台教区の実情についてはよくご存知であると思えます。司教座空位が長かったこともあり、種々の課題が前進しないまままで残されており、その解決には司教様の適切なご判断とご指導が必要とされております。  
私たち仙台圏の壮年グループは、司教様に協力して教区のため地域のためお役に立ちたいと思っております。ぜひ、これからも信徒との接触を密にして「生の声」に耳を傾けていただきたいと思います。お願い申し上げます。  
デオ グラチアス!

# エウカリスティアを学ぶ 仙台教区司祭研修会

11月21、22日の両日仙台教区司祭研修会が、仙台カトリックセンターで開催され、仙台教区で働く司祭40名が参加した。

講師は、横浜教区末吉町教会主任・教区典礼委員長のカンペンハウド師「写真」。

テーマは「エウカリスティア」で講演の要旨は次のようなものだった。

## 第1講話

「エウカリスティアの根本的理解」

キリストのいけにえは、死に至るまでの従順であり、どのような状態に置かれても、神に対する信頼と、人びとに対する愛を完全にもち続けた。キリストは人間の根本的罪である不信仰、不従順を引き受けた。従って、キリストの復活は、不信仰



に對する信仰の勝利、憎しみに對する愛の勝利、不従順に對す

る従順の勝利である。ミサのとき、キリストの従順をささげる。御からだと御血がその従順を現している。キリストの従順とともに私たちの従順もささげる。

ミサは、神の慈しみの神秘で



真剣に分かち合いをする司祭たち

ある。聖霊によって私たちをまします御子に似たものとしてくださる。そして、キリストのからだをいただくことは、単に個人の聖化だけでなく、「キリストのからだ」(神秘体「教会共同体」となるためでもある。従って、キリストのからだ(聖体)は、教会を作るものである。パンとぶどう酒をキリスト

のからだと血に変えるのは聖霊のはたらきであり、同時に私たちをもキリストと一致した、一つのからだにしてください。(共同体の一致)

ミサは人となつたイエスの

御父に對する礼拝で、私たちは聖霊の恵みによって、その礼拝にあずかることができる。ミサ

の祈りは、聖体拝領の前の二つの祈りを除いて、すべて聖霊のうちに、キリストの御父に對する祈りである。イエスとともにミサをささげるのは共同体である。信者も司祭とともに清い供え物を奉獻する。司祭は、「キリストに代わって」ミサをささげる。聖体は、完全な一致のしるしであり、一致への道である。『ことばの典礼と感謝の典礼は、相互に固く結ばれ、一つの礼拝行為をなしている』(典章憲章56)。ミサの中で私たちは二つの食卓、即ち神のことばの食卓と、キリストのからだの食卓からのちのかてを受ける。

## 第2講話

「エウカリスティアについてどのように信徒を養成するか」秘跡にはそれぞれの意味があり、それがよく分かるように



表さなければならぬ。司祭が祈りを唱えるとき手を上に向けて広げるが、信徒に向かって呼びかけるときは手を会衆に向かつて広げる。神に祈るときと会衆に挨拶するときでは声の調子も違はず、等等司祭が典礼を行うときに注意すべきことについて具体的に説明された。

第2日目は、まとめの講話があり、その中で、講師は、教会の中のさまざまな問題点、矛盾点を指摘された。

ミサが大切だと言っておきながら司祭不在でミサが出来ない教会がある。カトリックの文化は、どちらかといえばヨーロッパの古い文化に属してい

る。新しい文化に合った教会に変わらなければならないことを強調された。

講話の後、グループに分かれての分かち合いが行われた。

研修会の結びとして、40人の司祭による共同司式のミサが行われた「写真」。

ミサの終わりに、50年近くにわたり仙台教区で司牧のために尽力され、1月にカナダに帰国されるベランジェ神父に教区管理者平賀徹夫師から感謝の言葉と共に餞別が贈られた。(文責 岩井 誠)



さようなら・ありがとう マルセル・ベランジェ師(ケベック外国宣教会)は、日本における50年の宣教活動を終え、この程カナダ・ケベック外国宣教会本部に帰られることになった。師は、1956年に来日、小林司教の秘書、一本杉教会の助任司祭、白石八戸塩町、弘前、五所川原、青森本町の各教会主任司祭として仙台教区のために献身的に貢献された。どうぞお元気で。

# 講演要旨

## 聖書講演会

「人の死とは何か―聖書が語る死生観」

講師 真正会館聖書センター 両宮 慧神父

聖書週間にあたり、11月23、24日の両日、仙台教区カテドラルにおいて、東京教区司祭であり、聖書学者である両宮 慧神父による講演会が行われた。主催は「いっしょに聴く会」で、参加者はのべ180人であった。

4つの講話は、それぞれ50分の講話と10分の休憩。その間に質問を提出しその後の約30分に質問に回答するという形式で進められた。講話は深く懇切なものであったが、講話のあとの聴衆からの質問の多さにおどろくとも、それらひとつひとつ丁寧に答えられていた両宮神父の対応が印象的だった。

最初に、養老孟司氏の「わかる」といことは、変えられるということ」という言葉を引用されながら、「聖書がわかるということとは変えられること、新たな見方ができるよつになることだ」という言葉で始まった。

### 第1講話「人は死んだらどこへ行くのか。とつなるのか。なぜ死ぬのか。」

詩編39には、人の行く末を知ることの意味が述べられる。この詩編作者は、今、死の床にある。当時病にかかるといことは、その人が罪を犯したからだと言われていた。だから、この人は神からこらしめを受けていると感じて苦しんでいる。そして、この人は神に訴える。「神様、私が罪を犯した」と、そのために、今の苦しみを招いたことを認めます。しかし、罪を犯しているのに、その人が安穩と暮らしているのはなぜですか。なぜ、私が苦しめられるのですか。しかし、旧約では死後の世界で、神はまったく力を発揮するこ

とはできない。個人の復活を知らない旧約の人々は、だから、「今ここで神に出会わなければならぬ」と考えて、神にひたすら願うのである。詩編103では、14節を軸にして、神は憐れみ深い方と、神の本質を述べ、14節以降では、弱く、はかなく、罪深い人間の本



質を述べている。人は神と徹底的に関わることで生と死を捉えようとする。生とは神に結びつくことであり、死とは神から切り離されることである。

### 第2講話「生と死は連続しているのか。関わりは死んだら終わりなのか。」

詩編88は、人は死んだらどこへ行くのかに関連している。詩編30も同様、神に作者は次のように述べる。「神様、私が死んで墓に下ることに何の益があるのか、今、私を救ってくださるのなら、私はあなたの慈しみを語ることが出来る。あなたは優秀な宣教師を得ることが出来るのだ」と神を脅迫している。ヨブ記7・21では、ヨブは神に、あなたの捜索がおよばない範囲のところに居ようとしている私を今あなたと出会わせてくださいと祈る。

詩編73には、復活がほのめかされている。その24節は復活を暗示している箇所と言われる。肉体も心も滅んでいくが、神との関わりはとこしえたと歌う。

### 第3講話「死は終わりではない。新しいのちのスタート」

コリント15・1で、パウロは自分が教えられたもつとも大切なことを人々に伝えると言っている。それは、キリストが「死んだ、葬られた、復活した、現われた」という4つの動詞である。この4つの動詞は「死んだ、葬られた」という2つの動詞と、「復活した、現われた」という2つの動詞のグループに分けられ、同等の価値が

あるものとして扱われていく。つまり、十字架が大切な復活の活が大切か、復活は神の側からの一方的な働きであるという。復活があるので、死という事実は残っても死が勝利を収めることはない。ヨハネ20・11では、復活の主と出会ったマグダラのマリアの姿が描かれているが、イエスと分かるまでは、マリアの生き方は後ろ向きになっている。しかし、マリアは「振り返って(心を変えて)」みた時に、復活のイエスに出会い、未来を積極的に生き始めたのである。このマリアのように、キリストの復活は私たちの生きる姿勢の転換点となる。



かという問題ではなく、どちらも大切な福音であり、生活のよりどころである。

パウロがテサロニケにあてた手紙(4・15以下)の中で、イエスの死と復活はキリストを信じる私たちに与って初穂であるという。そして、キリストを信じる人は皆復活するという。コリント15・52以下で、パウロは私たちが主のみわざを行えば救われるとは考えていない。復活は神の側からの一方的な働きであるという。復活があるので、死という事実は残っても死が勝利を収めることはない。

あるものとして扱われていく。つまり、十字架が大切な復活の活が大切か、復活は神の側からの一方的な働きであるという。復活があるので、死という事実は残っても死が勝利を収めることはない。

### 第4講話「理不尽な死への怒りや悲しみをどのように捉えるべきか」

エレミア(12・1・6)は、主に「正しいのはあなたです。しかし、神に逆らって生きている人が

栄えているのは腑に落ちない」と嘆く。神に向かつて「なぜ」と問う。現実と信仰が対立している時、どちらも大切にしながら、「なぜ」と神に問う姿勢、これは旧約聖書が大切にしている生き方の姿勢である。このような詩編の語る嘆きは、いずれも祈りである。理不尽な死に出会った人は、犯人を憎らしいと思つし、苦しい。しかし、詩編作者のよつに、神の所へ行つて、「なぜ、私を忘れられるのか」と嘆けば、少しは安らぎがあるだろう。聖書を読む時、神の絶対的な止しさと自分のどつしよつもなさを認められた時、聖書のメッセージは入ってくる。

ルカ7・11 17には、死んだ息子を母親にお返しになった奇跡ルカ10・30 37には、善きサマリヤ人のたとえ話があり、どちらにも「憐れに思う」という「スプランクニゾマイ」という言葉が使われている。この名詞形は「はらわたが震えるような深い憐れみ」を指す。新約聖書にはこの言葉が12回使われており、9回は奇跡を行つイエスに使われ、残りはたとえ話の中で、少なくともイエスあるいは神を暗示している人に使われている。

なぜ、教会で葬儀を執り行つのか。それは、人間の同情には限界があるからである。神に寄り添ってもらわなければどつにもならぬいから、教会で葬儀ミサを行つのである。そして、私たちもその神と共に寄り添つのである。

(文責 佐藤 英樹)

# 二本松殉教祭 溝部脩司教(高松教区)を招いて

11月3日(木・文化の日)福

島県二本松教会で、溝部脩司教(高松教区)を迎えて殉教祭が行われた。

二本松では、1632年バ



ンチノ中牧  
主水ら14人  
が城下を引  
き回され、  
阿武隈川の

ほとり供中河原で  
5人が火刑、9人が  
斬首によって殉教  
している。

晴天に恵まれたこの日、二本  
松教会には県内外から200名を  
越える信徒が参加し、聖堂は満  
員となった。

殉教者列福調査特別委員  
会・委員長の溝部脩司教は、  
「ジョアン山の生涯」について  
と題して講演された。  
ジョアン山は九州出身で、イ



エズス会修道士として活動。迫  
害が激しくなるにつれて多く  
の宣教師や信徒が東北地方に

## 典礼の霊性を深める

石巻教会主任司祭 佐々木博  
エウカリステアの霊性

第十一回通常シノドス(世  
界代表司教会議)の「最終メ  
ッセージ」の中で、「エウカリ  
ステアの霊性」の大切さを  
強調しております。この霊性  
は、なによりも先ず、各典礼  
共同体が充実したミサを、  
「共にささげる」ことによっ  
て着実に培われるものであり  
ます。

この霊性は、次のような体  
験によって育てられます。ま  
ず、信仰を、信仰共同体の中  
で生きるといふことです。つ



まり、信仰を自分と神との縦  
の関係だけではなく、同時に  
横の関係、つまり、お互いが  
兄弟姉妹であるというつなが  
りの中で生きることが、まさ  
に本質的生き方なので  
す。ですから、  
「二人または三  
人がわたしの名  
によって集まる  
ところには、わ  
たしもその中にいる」(マタ  
イ18・20)を、実感すること  
です。この集うという体験は、  
ただ同じ場所に同席するとい  
うだけではなく、なによりも  
先ず、互いに心を開き、お互

いありのまま受け入れるこ  
とによって生まれる交わりと  
一致の中で、キリストに出会  
うことであります。

次に、「神に聴く」という  
体験を大切にすることです。  
ですから、ミサの第一部は、  
「ことばの典礼」なのであり  
ます。つまり、みことばの中  
に現存するキリストに、お会  
いするのです。ヨハネは、イ  
エスこそが、「神のことば」で  
あると明言しますが(ヨハネ  
1・1・4参照)、A年、B年、  
C年の三年の朗読箇所は、聖  
書の霊性を培う宝庫でありま  
す。

逃れて来た。ジョアン山も司祭  
と共に東北を巡り、広瀬川の殉  
教も目撃している。また、二本  
松では、中牧主水と妻アンナに  
教えを授けた。1625年11月  
会津城下で訴人によって逮捕  
され、その後江戸に送られ、1  
633年9月29日小伝馬町で  
穴吊るしの刑により殉教、享年  
65。  
講演の後、教会の庭にある殉  
教碑の前で野外ミサがささげ  
られた。

## 二本松における殉教者

寛永9年(1632)2月8日  
バレンチノ中牧主水(妻)  
アンナ(子)シメオン才兵  
衛(子)アレキシス権四郎・  
ヨハネ町田宗賀・アンデレア  
津田吉備・道川加右衛門・マ  
テオ六兵衛(妻)アグネス・  
(子)ルイス喜太郎(子)ロ  
マネス三十郎・ヒエロニモ助  
之丞・仙助・喜作



## <シリーズ> 188名日本殉教者列福の推進 レオ税所七右衛門 - 鹿兒島の殉教者 溝部脩司教

税所七右衛門  
(ざいしよ しちう  
えもん)は洗礼を  
受けて、わずか4  
ヶ月で殉教する光  
栄を受けた。短い  
信者としての生活  
を激しく生きた聖  
人である。  
1596年27

歳の七右衛門は主  
君の北郷三久に従  
つて、故郷の都城

から鹿兒島川内に移り住んだ。  
友人のキリシタン、パウロ吉右  
衛門の影響を受けて、キリスト  
教に興味を抱き、京泊にあった  
ドミニコ会の修道院を訪れ、そ  
こでキリスト教を学んだ。おも  
に教えたのは、後に殉教するモ  
ラレス神父であった。受洗を望  
んだが、主君の三久がそれを好  
まないのを知っていた同神父  
は考え直すように勧めるが、そ  
れでも受洗を希望。1608年  
7月22日受洗、洗礼名はレオ。  
主君の三久は棄教を迫り、11月  
16日死刑を宣告、翌17日斬首、  
殉教。遺体は長崎のドミニコ会  
の教会に運ばれた。

# 「主よ、命のパンをください」 第28回聖霊による刷新東北大会

協議会編)からのことばが印象的でした。

(北仙台教会・京野啓子)

れに「いのちのパン」による恵みをいただきました。

い。愛は他者を受け入れ、話し合うといった触れ合いから始められる。

「主よ、命のパンをください」

「ミサに集まった人々の信仰

が生き生きとしたものであれば、その共同体で行われる秘跡はもつと恵みが豊かであるといえる。」また「昔の要理では

聖変化を強調した。それはとても大事であるが、しかし、もうひとつ大事なことは本当の意味でミサの聖変化は、パンとぶどう酒の変化だけではなく、それにあずかる共同体の変化だ。

「共同体の変化」、それこそが本物の秘跡である。」という内容でした。また、ミサをよく理解すること、そしてキリストのからだと血に共にあずかる私たちが聖霊によってキリストの体に変えられるようにと願うことが、ミサの中で非常に大事であると理解しました。

「主よ、命のパンをください」

「ミサに集まった人々の信仰

が生き生きとしたものであれば、その共同体で行われる秘跡はもつと恵みが豊かであるといえる。」また「昔の要理では

聖変化を強調した。それはとても大事であるが、しかし、もうひとつ大事なことは本当の意味でミサの聖変化は、パンとぶどう酒の変化だけではなく、それにあずかる共同体の変化だ。

「共同体の変化」、それこそが本物の秘跡である。」という内容でした。また、ミサをよく理解すること、そしてキリストのからだと血に共にあずかる私たちが聖霊によってキリストの体に変えられるようにと願うことが、ミサの中で非常に大事であると理解しました。

朝の祈りの集いは、「聖体の前で聖アルフォンソの聖体に対する祈りが唱えられ、静かな礼拝の時間は、喧騒の中で暮らす者にとっては貴重なひとときとなりました。

講話は「聖体の年」にふさわ

「病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

聖書に「狐には穴があり、空の鳥には巣がある、だが人の子には枕するところもない」(マタイ8・20)とあるように、本来人間は孤独な動物といわれている。まして老人や病人といった弱い立場にあれば、生きていくことさえ苦痛な時もある。孤独の妙薬は「愛」しかない。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「主よ、命のパンをください」

「ミサに集まった人々の信仰

が生き生きとしたものであれば、その共同体で行われる秘跡はもつと恵みが豊かであるといえる。」また「昔の要理では

聖変化を強調した。それはとても大事であるが、しかし、もうひとつ大事なことは本当の意味でミサの聖変化は、パンとぶどう酒の変化だけではなく、それにあずかる共同体の変化だ。

「共同体の変化」、それこそが本物の秘跡である。」という内容でした。また、ミサをよく理解すること、そしてキリストのからだと血に共にあずかる私たちが聖霊によってキリストの体に変えられるようにと願うことが、ミサの中で非常に大事であると理解しました。

「主よ、命のパンをください」

「ミサに集まった人々の信仰

が生き生きとしたものであれば、その共同体で行われる秘跡はもつと恵みが豊かであるといえる。」また「昔の要理では

聖変化を強調した。それはとても大事であるが、しかし、もうひとつ大事なことは本当の意味でミサの聖変化は、パンとぶどう酒の変化だけではなく、それにあずかる共同体の変化だ。

「共同体の変化」、それこそが本物の秘跡である。」という内容でした。また、ミサをよく理解すること、そしてキリストのからだと血に共にあずかる私たちが聖霊によってキリストの体に変えられるようにと願うことが、ミサの中で非常に大事であると理解しました。

朝の祈りの集いは、「聖体の前で聖アルフォンソの聖体に対する祈りが唱えられ、静かな礼拝の時間は、喧騒の中で暮らす者にとっては貴重なひとときとなりました。

講話は「聖体の年」にふさわ

「病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

聖書に「狐には穴があり、空の鳥には巣がある、だが人の子には枕するところもない」(マタイ8・20)とあるように、本来人間は孤独な動物といわれている。まして老人や病人といった弱い立場にあれば、生きていくことさえ苦痛な時もある。孤独の妙薬は「愛」しかない。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

## 苦悩を祈りに変えてささげる

### 第17回カソック仙台総会

2005年10月20日(木)中央から会長のJ・スロイテル師と、カソック仙台の指導司祭土井勝吾師を迎え、元寺小路教会で第17回総会(参加者40名)を開催した。

カソックとは、「病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。



講話は「聖体の年」にふさわ

「病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

聖書に「狐には穴があり、空の鳥には巣がある、だが人の子には枕するところもない」(マタイ8・20)とあるように、本来人間は孤独な動物といわれている。まして老人や病人といった弱い立場にあれば、生きていくことさえ苦痛な時もある。孤独の妙薬は「愛」しかない。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。



スロイテル師と土井師を囲んで

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

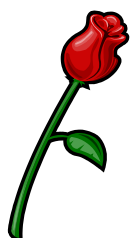
「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

「カソックとは、病者の布教会」の愛称で、全国各地の信徒が個々にスロイテル師と関わり指導を受けている会で、会員は毎日一回全会員のために祈ること以外、会費もなく名簿も発表されていません。

(代表 青山里恵子)



「主よ、命のパンをください」

「ミサに集まった人々の信仰

が生き生きとしたものであれば、その共同体で行われる秘跡はもつと恵みが豊かであるといえる。」また「昔の要理では

聖変化を強調した。それはとても大事であるが、しかし、もうひとつ大事なことは本当の意味でミサの聖変化は、パンとぶどう酒の変化だけではなく、それにあずかる共同体の変化だ。

「共同体の変化」、それこそが本物の秘跡である。」という内容でした。また、ミサをよく理解すること、そしてキリストのからだと血に共にあずかる私たちが聖霊によってキリストの体に変えられるようにと願うことが、ミサの中で非常に大事であると理解しました。

# 『ガンバレ!ホスピス2005』 〜笑ってまじめに応援団〜

歩いてくれた。そして、多くの人が

この催しは、今年で8回目となり、ホスピス活動の支援を続けている。

## 感謝のうちに5年目に

路上生活者支援「炊き出し」

光ヶ丘スベルマン病院のホスピスを応援しようと、「ホスピス設置を願う会」(代表 小野敬子) 主催 仙台教区後援で11月26日(土)仙台市福祉プラザを会場に「ガンバレ!ホスピス2005」が開催された。

2001年1月10日に始まった、路上生活者(ホームレスの人びと)支援の「炊き出し」は5年目に入りました。活動の始めから今日まで、皆様のご支援とご協力によって続いていることに感謝申し上げます。

作業をします。11時半には全員が集合して、プログラムと役割を確認し、五橋公園に出かけます。12時から食事を提供し、30分後、ブルーシートに並べた衣類などの生活用品を選んで持ち帰っていただきます。

## “炊き出し”支援 クリスマス コンサート

路上生活者を支援しているカトリック正義と平和仙台協議会(会長 渡辺清)とNPO法人 朋友(理事長 芳賀ヒロ子)の共催で、12月10日(土)元寺小路教会大聖堂でクリスマスコンサートが開催された。

開会のセレモニーで、スベルマン病院理事長 鷹鷲達衛師に、願う会のホスピス基金の中から100万円が贈られた。

第一部は落語家の樋口強さんを講師に招いて、「いのちの落語」私を支えてくれたもの」と題して講演が行われた。

講師は、10年前に肺がん、それも生存率がほぼゼロに近いと言われる悪性の小細胞がんを発症し、手術、抗がん剤治療を経て、5年前からがん患者さんとその家族を招待して、「いのちに感謝の独演会」を毎年開いている。



第2部は、「アルパを一緒に」と題して、アルパ奏者のホセ・ルイス・バルボーサさんと奥様の岩崎わかかなさんのアルパの演奏と歌「写真」。3000人を超す聴衆は、フィルムケースで作ったミニ馬拉カスをリズムに合わせて振りながら、美しいアルパのひびきを堪能した。

月に一回、「夜まわり」に20名ほど、「炊き出し」には30名ほどが参加してくださっています。カトリック・プロテスタント教会の信徒、クリスチャンではない方など、さまざまな層と世代が集つので、いろいろとギャップもあつたりして、なかなかおもしろいです。

「夜まわり」は、「炊き出し」のある週の水曜日の夜、5チームに分かれ、オニギリなどをもつてホームレスの方の寝床にうかがいます。近況を聞いたたりしながら、「炊き出し」の案内をいたします。

「炊き出し」は、第2土曜日の朝、9時に元寺小路教会(または北仙台教会)に集まり、調理班と衣料班に分かれて準備

お正月の炊き出しの案内

1月3日(火) 12時から・五橋公園で「餅つき」をします。カラオケ大会もあります。



人に支えられたお陰で、特に家族は私の両脇に並んで

私の後ろに居て、私の背中を押してくれた。人と人のつながりがいかに大切かをユーモアたっぷりに話された。また笑いががん細胞を攻撃するキラー細胞を増殖させる効果があり、特に家族団らんの中での笑いが一番大切であることを強調された。

「炊き出し」は、第2土曜日の朝、9時に元寺小路教会(または北仙台教会)に集まり、調理班と衣料班に分かれて準備



昨年の「餅つき大会」

菅野洋子さんも自作の曲を中心に演奏したが、美しいハーモニイは聴く人の心に静かにしみてくる正に癒しの音楽であった。招待した路上生活の方47人を含め、約180人が一足早くクリスマス気分を味わった。

菅野洋子さんは、ギターを奏でながら、ホームレス生活で感じた人の心の温かさを主題に作詞作曲した自作の歌を、トークを交えながら、熱唱した。また、彼のステージの最後に、ホームレスの自立のために発刊されている『ビッグイシュー』の販売員をしている堀井守さんが参加して、堀井さん作詞、新沼さん作曲の『ビッグイシュー』応援歌を歌い多くの拍手を受けた。

新沼さんは、ギターを奏でながら、ホームレス生活で感じた人の心の温かさを主題に作詞作曲した自作の歌を、トークを交えながら、熱唱した。また、彼のステージの最後に、ホームレスの自立のために発刊されている『ビッグイシュー』の販売員をしている堀井守さんが参加して、堀井さん作詞、新沼さん作曲の『ビッグイシュー』応援歌を歌い多くの拍手を受けた。

# 投稿

## 教会と子供

東仙台教会 赤井 聖子

私たち親子は息子が5歳の復活徹夜祭の時洗礼を受けました。息子はずでに教会の子でした。確かに我が家の息子ではあるのですが、教会の中で教会の方々に育てられたと言っても過言ではありません。

たことがありません。小学でも中学でも、そして高校大学に進んでも変わることなく続いています。学校での部活動や生徒会活動も人一倍行ってはいたはず。しかし、教会に行くことが第一であり、その時間の埋め合わせのために他の子の何倍も努力したに違いありません。

日曜日は教会に行く日です。それはごく自然で、至極当然のことでした。午前中は教会に居るわけですから、子供達が喜んでみるテレビ番組は一度も見

強制的に教会へ連れて行

たわけではありません。教会という共同体を、幼いながらも家族として受け止めていたのでしよう。そして何より、居心地の良いところだったので

私は、傷口に指を入れなければ信じられないと言ったトマスと同じなのかもしれません。もし、夢の中で主イエスの言葉を聞いていなかったら、いつも不安に怯え、生まれた子供も共同体に任せようとは思わなかったでしょう。夢は夢としても、信じた私は救われたと思っ

しょう。子どもはいつまでも親の言いなりにはなりません。教会へ行かないことも自分で決めているのです。でも、本当にそれで良いのでしょうか？

最近、教会の中で子ども姿が見えませんが、特に中学高校は部活動が優先されますから。確かに現実問題として、クラブに所属していれば休日の午前中も休むことは許されないの

しかし、親が毅然として部活動優先の意味を問い、話し合う事も必要だと思つのです。私たちはよく話し合う親子です。昔も今も、自分の思いを伝えることは大切ですから。

シャルトル聖パウロ修道女会 Sr.小澤 恵美子

毎年のことながら、すがすがしく新しい気持ちになるこの季節には、同時に古い思い出もよみがえってきます。それは子供のころ、友人や親戚の家に招かれたり、また我が家に招いたりして祝い合った賑やかなクリスマスやお正月のこと。招かれる立場であれば、「お土産は何がいいかしら」「何を着ていこうかしら」と悩むのもまた楽しいものでした。反対に招く側になったときはもっと大変です。夕方からのパーティであつても、

### 招きにごたえて ⑦

子供心に「お客さんになってお呼ばれるほうが楽だわ」と思ったものです。

さて時は流れ、私が修道院で迎える正月も今年で6年目になりました（仙台では初めでです）。私たちはこの生活に

入ったきつかけを、よく「神様に呼ばれた」と表現しますが、「呼ばれる側」の楽しさ、気安さをこの場合にもつくづく実感します。そして、私を招くために、神様が心をこめて、趣向を凝らして準備してくださった部屋にいつまでもいられたらどんなにいいでしょう。それから、「呼ぶ側」だったときにお客様から時々おっしゃっていたことばを、私も神様に申し上げたいと思つのです。「お手伝いできることはありませんか？」

現在息子は25歳。大学院で学んでいます。普通の若者のように青春を謳歌していますが、子どもたちが教会から離れないように、そして喜びを感じて教会に来る子どもが一人でも増えるようにと関わりを持っています。

恥をさらすようですが、我が家は決して子どもが苦も無くすくすくと育つ環境ではありませんでした。時として揺らいでしまいそんな母である私は信仰によつて救われ、息子は何時も司祭や大人達に見守られ育てられたのです。神の存在は

勿論ですが、すぐ傍に尊敬できる大人、心から慕つことのできる大人がいるということがどれほど幸せなことか・・・。子どもの頃自分が見つめてもらったような眼差しで子どもたちを見つめる息子。そういう息子を見て、教会の中で子どもが育つことのすばらしさを感じずにはられないのです。

ミサで奉仕する子供たち



### 司祭異動



平賀被選司教は、12月12日付で教区事務局

長に和野信彦師を任命した。また、古川教会主任代行も務めることになる。

# 各地から

岩手 釜石教会

## 岩手病障協の現状について

2004年に新たな出発をした岩手病障協(カトリック岩手県手障者・障害者等弱者と共に歩む協議会)は一年間指導司祭の指導と主任司祭の理解と支援、さらには釜石教会信者の一年間に及ぶ祈りに支えられて、共に居てくださる神によって進むべき道に導かれ2005年3月に会則を定めました。

会則の内容は、現在弱い立場におかれていた人々と共に歩みながらキリストの共同体の一員として兄弟愛を互いに実践し、社会の福音化を目的としております。

この目的を実現しようと新たな視点を3点決めました。1、信仰を持って祈ること。2、会



釜石教会聖堂

員は会費を納めることが出来る(会費を2000円と定めているが納めなくとも良い)。3、活動費用の資金は、地元の海産物を教会で奉仕によって販売していただく。

岩手信徒連絡会の承認を得て、盛岡では四ツ家教会、仙台教区では元寺小路教会などで販売活動や組織の目的活動を実践いたしております。今後この活動をバランスよく発展させていきたいと思っております。

この文書を作成中に、力障連を支える会の会長野村純一司教様から今年度の力障連への拠出200万円の報告書が届き、私たちの活動を励まされる思いを致しております。(小野寺 哲)

### 宮城 豊屋丁教会

待降節が始まった11月27日、

ユン神父様(気仙沼教会)の指導で黙想会が行われました。写真「ユン神父様は、韓国出身で昨年春に来日し、仙台中央地区で活躍されていましたが、今春に気仙沼教会に赴任されました。私たちの教会では、ユン神父様を追いかけるように6月には研修旅行で気仙沼教会を訪問しました。そして今回、ユン神父様に待



降節の黙想会をお願いいたしました。

待降節のろうそくが一週ごとに明るく色が変わっていくように私達の心もきれいにして降誕祭を迎えられるように心して生活を送りましょうと話されました。

時々韓国と日本の違いなどを織り交ぜながら有意義な黙想会となりました。

また、この日は在日の韓国の方々14人も一緒にミサと黙想会に参加し、昼には日本の料理と本場韓国のキムチをおかずとして楽しい昼食会で、よりよい日韓交流ができた日となりました。

12月18日には昨年に引き続き、斎藤幸恵さんによるフルート演奏のクリスマスコンサートがカリタス・ジャパンの後援

をいただいて開催されました。一般の方も含めた大勢の聴衆を前に、クリスマスにちなんだ曲も多く演奏され、温かい拍手のうちに無事終了いたしました。(原 尚幸)

### 宮城 東仙台教会

#### 改修竣工と祝福式

東仙台教会の改修工事が終了し、2005年10月30日(日)教区管理者・平賀徹夫師の司式で祝福式が行われた。

1995年から教会新築に向けて10年計画で臨んできたが、昨年3回の臨時総会を経て新築でなく改修工事とする事になった。

昨年11月、実行委員会を立ち上げ、改修工事に向かって取組み始めた。当初はさまざまな問題が生じたが、そのつど仙台中央地区モデルチームのエメ・ポルデュック師始め司祭チームのご指導をいただき、23回の実行委員会を経て、7月25日着工10月25日竣工の運びとなった。骨組みと屋根を残しての工事が進む中、築32年の建物の一部に腐食があり、耐震のための補強など、追加工事を余儀なくされた。

建物の形はそのままに内装、外装を張り替え、床面の段差を

無くし、土足のまま出入り出来るようにした。

また、中二階と香部屋を解体移転して聖堂がより広くなり、祭壇など内陣を重点的にリニューアルし、祈りの場としてより良い聖堂となった。

祝福式には大勢の信徒が参列し、平賀師のほか、エメ師、



梅津師、鷹鷲師、村首師、深沢師、三浦師が同席、祝福式のミサが執り行われた「写真」。

説教の中で、梅津師は、「建物の改修だけでなく、信徒として心を改めていくことも大切」と話された。

今後、仙台中央地区宣教司牧の中で連携を深め、地域宣教にさらなる努力をしようとの決意を新たに、無事改修工事が終了したことを神に感謝している。(信徒会長・伊藤 雄基)

# 活動紹介

## 東仙台教会スカウト活動

2005年11月20日、澄み切った秋空。教会改築工事が10月30日終了した新しい聖堂の隣の第2集会室に、ボーイスカウト50名、ガールスカウト40名が集まり、ミサが始まった。ミサの中で、七・五・三の子供たちへの祝福が行われた。写真

ミサ後、スカウト祭り『楽しく遊ぼう』をテーマに地域の方々とゲームやミニバザーが開催された。

## 私の気分転換

野田町教会 佐々木 善英

音楽ですね。聞くのも好きですが、演奏するのはもっと楽しい。福島市の音楽堂にはパイプ・オルガンがあります。パイプ・オルガンの生の音には独特の迫力があります。福島市ではパイプ・オルガンの演奏講座を一般公募したので私も応募したかったのですが条件として平均律が弾けることとあったのであきらめざるを得ませんでした。

そういうわけで、もっぱら吹奏楽を楽しんでいます。中学生のときからなのですが、好きこそ物の上手なれ、と自分に言い聞かせて

スカウトたちの手作りコーナー、フランクフルト、焼き鳥、焼きそば、ガラクタ市、八百屋市。プフパンや水あめコーナー等には子供たちの明るい声が響いていた。

地域の方々、病院の患者さん、養護学校の寮生の方など大勢の方が寒さを押し集まってくださり、大盛況のスカウト祭りとなった。ミニバザーの収益は、教会の『愛の一食』へ献金。

クリスマスが近づくと、老人ホーム訪問や障がいを抱えた方々とのクリスマス会などの準備で忙しくなる。

います。

私の所属しているのは、フィール・ウィンド・オーケストラという団体です。若きは高校生から、老いたるは50代の私に至るまで若男女入り混じって演奏しています。私にとってはどの仲間も得がたい友人です。「楽友」という言い方がありますが、まさにそれだと思っています。春の定期演奏会と夏の吹奏楽コンクール、冬のアサンブル・コンテストが主な行事です。機会があったら私たちの演奏をお聞かせ

したいものです。



スカウト運動は、「神と人に仕える」ことを目標とした青少年活動である。

1965年12月13日にボーイスカウト宮城4団(後に14団になる)として発団。東仙台教会信徒の皆さんの支援と協力のもと、現在ボーイ109名、ガール94名(指導者も含む)の大世帯となった。神に感謝。  
(団委員長・平岡 威)

## 修道院紹介

ドミニコ会 雪の聖母修道院  
霊峰磐梯山の麓の大自然の中で、聖ドミニコの姉妹8人は、観想生活を送っております。磐梯町には法相宗の徳一僧が築

いた恵日寺もあり、9世紀初頭から今も祈りの地として恵まれた土地です。日々の生活の中でも、土地の人々との祈りを通しての交流があります。毎年クリスマスの日には、地域の皆様をお招きして、いっしょにミサにあずかり、食事をいただきます。起床から就寝まで一日7回の「教会の祈り」をもって、世界中の人々と心を合わせ、神への賛美、感謝、嘆願の祈りをささげております。

私たちの所には、美しい種々のカード、小物類の製作、また静かな祈りの時を過ごしたい人々のための建物があります。庭には、リス、ウサギ、キツネ、タヌキ、シカ、サル、テン、たくさん的小鳥たちが遊びにきて、私たちの心を楽しませてくれます。(スール・マリ・ヨゼファ)



修道院聖堂

## 新刊案内

「知りたいことが全部詰まった1冊! 早わかり キリスト教」  
著者 宮越俊光 / 発行所 日本実業出版社 / 定価 1400円 + 税  
カトリック教会のいろいろなことを、友達や親戚の人に尋ねられて、答えられずに困った経験をお持ちの方は、多いのではないのでしょうか。

神父様に質問したり、学校の先生に尋ねたりして、お答えになっていたらっしょやと思えますが、お忙しい人に、疑問に思っていることをすべて質問できない時もあります。

そういう時、私たちは、何か便利な本はないかしらと思ったりするものです。

本書は、そういう希望に答える、内容のしっかりしたよい本としてお勧めできるものです。このたぐいの本は、あるものは専門的すぎたり、あるものは簡単すぎたりするものが多いのですが、本書は、構成もよく、1項目が見開きページにおさめられており、見やすく、調べやすく作られています。

著者の宮越氏は、上智大学大学院・神学部を修了し、上智短大、清泉大学などで、キリスト教の講師を務めるだけでなく、日本のカトリック司教団の典礼委員会の秘書の任も負うカトリック信者です。

